

サンゴ白化問題に対する  
日本サンゴ礁学会 1998 年大会アピール

1998 年 11 月 3 日  
日本サンゴ礁学会 1998 年大会実行委員会  
委員長 近 森 正

1998 年 7 月以降，造礁サンゴなどから共生藻がぬけ出しやがてその死をもたらす「白化現象」が，琉球列島など国内のサンゴ礁の広い範囲において認められた．その影響は，現在も続いている．今回の白化は，これまで観察された中でもっとも規模の大きなものである．

白化は，琉球列島全域で観測された 1998 年の高水温に伴って起こったと考えられる．世界的に見ても，1997 年以降地球の様々なサンゴ礁において，これまでにない大規模な白化が報告されている．我々は，この現象を地球規模の環境変動との関係において注視している．

サンゴの白化は，サンゴ群集だけでなく，サンゴ礁に住む様々な生物群集とそれを取りまく社会・経済活動にも大きな影響を及ぼすであろう．我々はこの問題の重要性を認識し，その実態解明と正確な記録，メカニズムの解明，今後の継続的なモニタリングが必要であることを合意した．日本サンゴ礁学会では，白化問題特別委員会を設け，今後の対応について検討することを決めた．こうした活動に対する，理解と協力を要望する．